

田尻町  
歴史館  
(田尻町)

みゆ〜  
ザ・見遊じあむ

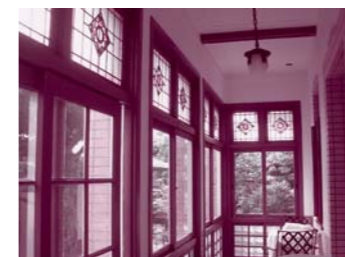
61

かつては社長の邸宅でした



ミュージアムメモ

▶所在地/泉南郡田尻町大字吉見1101-1 ▶交通/南海本線「吉見ノ里駅」下車徒歩10分 ▶開館時間/9時~18時 ▶休館日/毎週水曜日、12月28日~1月4日 ▶入館料/無料 ▶連絡先/072-465-0045



建物の所々にステンドグラスが

大正ロマンの  
雰囲気あふれる洋和館

(大正11年)に氏の郷土であった田尻町に建てられました。現在は大阪府の指定有形文化財にもなっています。

敷地内には洋館・和館・土蔵・茶室があり、西欧と

たまねぎの名産地で知られる泉州・田尻町に、大正ロマンの雰囲気伝える建物があります。名前は「田尻町歴史館」。明治から大正にかけて「綿の王」とよばれ、関西繊維業界の中核を担った谷口房蔵氏(大阪合同紡績株式会社社長)の別邸として、1922年の

日本の伝統的な洋式が優雅に調和しています。洋風館の窓には草花をモチーフにしたステンドグラスがあり、陽光が室内に差し込む光景が印象的です。建物内にはカフェレストランもあり、ケーキセットでコーヒーを飲みながらくつろぐことができます。レトロな雰

囲気の建物内では音楽会の催しもあり、結婚式にも貸出をしています。

「十三人の刺客」



映画史に残る壮絶な50分間の死闘

日本を代表するヒットメーカーの三池崇史監督がメガホンを取り、主演の役所広司をはじめ、稲垣吾郎、松方弘樹、市村正親、松本幸四郎ら豪華なキャストの共演も話題です。幕府の権力をわが物にするため、罪なき民衆に不条理な殺りくを繰り返す明石藩の藩主・松平斉韶(稲垣吾郎)を暗殺するため、島田新左衛門

(役所広司)の下に13人の刺客が集結します。一方、藩主の斉韶を守る藩士は新左衛門のかつての同門・鬼頭半兵衛(市村正親)ら総勢300人超の軍団が鉄壁の布陣を敷いていました。圧倒的に不利な状況のなかで、新左衛門が考えた秘策とは…。

映画のハイライトであるラスト50分の壮絶な死闘にあなたちは堪えられるでしょうか。13人对300人という戦闘だけに、単なるチャンバラの斬り合いを超えて、さまざまな仕掛けがあつてエンターテイメントいっぱいです。スピーディーな殺陣を貫く役所広司に対して、かつての東映時代劇の型を継承した流麗な殺陣で魅せる松方弘樹の対比も見応えがあります。残酷非道の限りを尽くす暴君に国民的アイドル・SMAPのメンバーの稲垣吾郎を配置したのも喝采です。ただし、稲垣吾郎ファンには少々キツイかも…。

このシネマ

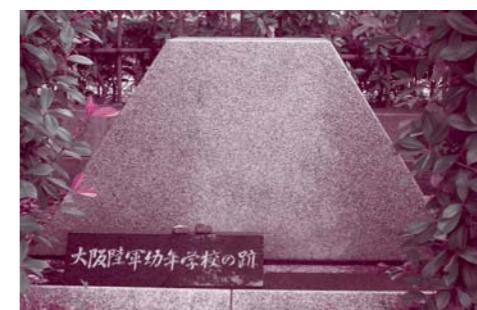
ガラいナ

大阪の  
戦跡を歩く

第60歩

陸軍幼年学校跡

(河内長野市)



独立行政法人大阪南病院の正門を入って右側の植え込みの中に「大阪陸軍幼年学校の跡」と記した碑文があります。1940年(昭和15年)から敗戦までの6年間、ここに全国から15歳で入学してきた少年約1200人が学び、陸軍兵士として戦地に送られていきました。学校の建設当時、この場所は「市村

(いちむら)」という地名でしたが、天皇の忠臣を育てる学校であることから、皇居がある東京の「千代田」の名にちなんで「千代田台」と名付けられました。南海高野線の「千代田駅」は、陸軍幼年学校の創設に伴って開設された駅です。

撰津  
河内  
和泉  
三國誌  
おおさか

61  
(大阪市  
中央区)

川上音二郎と帝国座  
自由民権の思想を広げた  
明治の国際派俳優

1910年(明治43年)、船場北浜に大阪で最初の西洋式演劇場「帝国座」が落成しました。レンガ造り3階建ての洒落た様式で、日本の演芸場とは全く異なる趣きに多くの人が目を見はりました。この劇場を建立して活動の拠点にしたのが、当時の演劇俳優・川上音二郎(1864~1911)です。音二郎は明治20年代の頃から、自由民権思想をもとに、政治や社会を風刺して人気を博していました。「権利こうふく きらひなひとに 自由湯をば のませたい オツペケペ、オツペケペッポッペッポッポッ」というオツペケペ節は有名です。

日本の演劇界に新風をもたらした帝国座



現在は跡地のビルに碑が建っています



また音二郎は、シェークスピアの翻訳劇など、西欧演劇の普及にも努め、妻・貞奴(日本初の女優)とともに一座を結成して、海外公演も行いました。帰国後、実業家からの支援を受けて建てたのが「帝国座」です。建設にあたって音二郎は、多くの客をむやみに詰め込む営利主義を排し、舞台を劇場の半分にまで広げて天井を高くするなど、余裕をもったスペースを確保しました。しかし落成した翌年、音二郎は帝国座の舞台上で上演中に病で倒れ、そのまま楽屋で息を引き取りました。音二郎の死後、帝国座の建物は、銀行や教会などに姿を変えながらも1960年代半ばまで残っていました。

いまも心に響く  
名詩・名歌・名語録

我、いまだ  
もっけい  
木鶏たりえず  
双葉山

69連勝の記録をもつ戦前の横綱・双葉山(1912~1968)が恩師に送った電文。1939年(昭和14年)春場所の4日目、安芸の海の外掛けに倒れて連勝がストップしました。「木鶏」とは「庄子」にある言葉で、戦いに万全の備えをして心は平静、木彫りのように動かない闘鶏をさします。大記録を残しながらも、双葉山は己の未熟を謙虚に恥じたのです。

充実した一生は  
幸福な死をもたらす  
レオナルド・ダ・ビンチ

ルネサンス期に、芸術、科学、医学などで万能人として活躍したレオナルド・ダ・ビンチ(1452~1519)の言葉。「充実した日々が幸せな眠りをもたらすように」という言葉がこの前にあります。数々の業績を残して不朽の名を残したダ・ビンチは、もっとも充実した人生を送った者の一人であったといえるでしょう。